





《砂川看護部長より新年のご挨拶》

全職員 One team で努力を

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと新天皇の即位により、清々しい気持ちで新しい「令和」の時代を迎えました。スポーツ界ではラグビーやゴルフ、バスケットボールなど、日本人選手や若い世代の選手など世界レベルでの大活躍に、夢と希望を共有できた特別な年であったのではないのでしょうか。当院においても歴史に残る一大イベント「電子カルテ導入」が完了し、記念すべき年となりました。情報が共有できるようになっても、その情報を十分に活用するためにはまだまだ時間を要すると思いますが、ベッドサイドでのケアが充実し本当の意味で便利になったと思える日が来るまで、全職員 One team で努力したいと思います。夏には半世紀ぶりの東京オリンピックが開催されます。台風や豪雨などの自然災害や、心痛める出来事で辛い思いをされている方にも、元気を取り戻して平和を感じる機会になればと期待しています。

2020年が皆様にとりまして、穏やかな良い年でありますように心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新しい機器を導入しました！

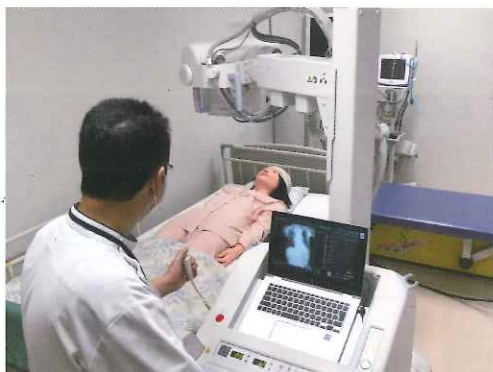
放射線科は11月から最新式の回診用X線装置とフラットパネルを導入しました。

レントゲンフィルムに代わるフラットパネルはX線画像もアナログ写真ではなくデジタルX線画像のためデータ保存、高画質、濃度変更ができます。皆さんが使っているデジタルカメラと同じ感覚です。患者さんのX線撮影画像はモバイルシステムパソコンを使いその場で確認ができます。そのため再撮影はすぐに出来るので患者さんの体を動かすことが最小限で済むので負担が少なく短時間でできます。撮影した画像は今まではフィルムを放射線科へ戻り出力してから病棟に届けていましたが、PACS(医療用画像管理システム)により瞬時に病棟の高画質モニターで見ることが出来ます。

これらの点からフラットパネルと回診用X線装置を合わせると鬼に金棒と言われるくらいの力を発揮できます。医療器材は日々進歩し、色々と便利になっていきますが、常に患者さんに寄り添い

ながらこれからも日々のX線撮影には安全第一を心がけていきます。

(文/放射線科・工藤)



最新式の回診用X線装置とフラットパネル



『チーム医療』

医師や看護師をはじめ、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、放射線技師、検査技師などの医療従事者がチームを組んで、それぞれの専門分野での経験や知識・技術を集約して、1つのチームを結成して診療にあたることで患者さんに対してもっとも良い医療を提供することをいいます。

当院でも病院内で起こる様々なことに対し、『チーム医療』でサポートしています。

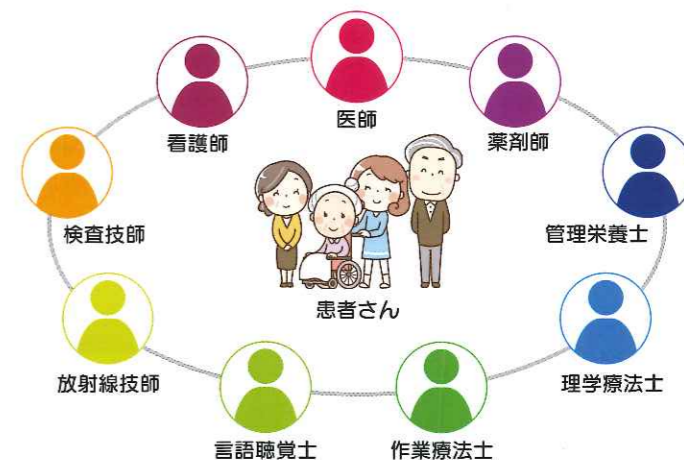
褥瘡対策チーム

NST：栄養サポートチーム

ICT：院内感染対策チーム

緩和ケアチーム

認知症ケアチーム(看護師)



今回は「褥瘡対策チーム」について紹介します。褥瘡対策チームでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、各病棟リンクナースで構成されています。定期的に病棟ラウンドを行い褥瘡のある患者やリスクの高い方に対し、完治または継続的な管理を実施するとともに、各病棟のリンクナースやスタッフへ予防や処置の助言や指導を行っています。院内勉強会も年2回積極的に行っており、病院全体でスタッフの褥瘡に関する知識や技術の向上も図る活動も行っています。



「褥瘡対策チーム」のメンバー



(文/看護師・藤倉)

褥瘡(じょくそう)とは、平たく言うと「床ずれ」のことです。

持続的な圧迫によって、組織の血流が減少・消失し、虚血状態、低酸素状態になって、組織の壊死が起こった状態です。寝たきりや麻痺などで体位を変えられない人にできます。

腰の仙骨部や足の踵の部分、骨が突出している部分など、圧迫を受ける部分に現れます。栄養不良状態があると創(傷)が治りにくくなり、慢性化しやすくなります。

発生要因を評価しリスクが高い患者さまに対してチームで早期から介入することで、発生を予防あるいは軽症のうちに発見して治療することが、褥瘡対策チームの役割です。